

微生物学Ⅰ・Ⅱ，臨床微生物学Ⅰ・Ⅱ

1年次【前期】～3年次前期 片岡佳子，村上圭史，岡崎勝一郎

ここで紹介された資料は**蔵本2階授業サポートナビコーナーにあります**ので，どうぞご利用ください。
(同じ本が3冊以上ある場合は★の場所にもありますので，そちらもご覧ください)

図書

授業のテーマをつかみ事前学習や復習を効率的に進めるために，これらの図書を参考にしましょう

□ 臨床微生物学（最新臨床検査学講座） / 松本哲哉編 医歯薬出版 2017

→ 感染症を引き起こす微生物の基本的な特徴に加えて，原因微生物の同定や薬剤感受性試験に必要な情報が網羅されている。卒前教育で身につけておくべきことを効率よく学習できるテキスト。検査専攻用の講義に使用している。

【492.1||Sa】

□ 新カラーアトラス微生物検査 / 山中喜代治【編】 医歯薬出版 2009

→ 本書は，感染症診断の進め方，基本的な手技や検査材料の質の評価等について豊富な図表と写真で説明している。代表的な原因微生物の症例が多数掲載されていて，検査の流れに沿って効率よく学習できる。検査専攻のサブテキスト。

【492.18||Sh】

□ メディカルサイエンス微生物検査学 第二版 / 太田敏子他編 近代出版 2016

→ 臨床微生物についての基本的なテキスト。感染臓器別に症状の特徴や原因候補微生物が説明されている。化学療法薬の特徴や薬剤耐性菌の耐性獲得の機序についても説明されている。検査専攻用のサブテキスト。

【492.18||Me】

□ 臨床微生物検査技術教本（JAMT技術教本シリーズ）第2版 / 日本臨床衛生検査技師会監修 丸善出版 2024

→ 感染症を引き起こす微生物の基本的な特徴に加えて，原因微生物の同定や薬剤感受性試験に必要な情報が網羅されている。卒前教育で身につけておくべきことを効率よく学習できるテキスト。抗菌薬への耐性機序や薬剤耐性菌の確認試験等については，講義に使用しているテキストよりも詳しく具体的で，たくさんの図や写真を使用して説明されている。

【492.1||Ja】

□ 微生物検査学実習書（臨床検査学実習書シリーズ） / 日本臨床検査学教育協議会監修 森田耕司編 医歯薬出版 2012

→ 微生物検査の基本的な操作について卒前教育で身につけておくべきことを効率よく学習できる実習書。実際の検査

の流れに沿って主要細菌の検査法を具体的に学ぶことができる。

【492.11||Ri】

□ **検体採取者のためのハンドブック / 日本衛生検査技師会監修 じほう社 2016**

→ 臨床検査技師も平成 27 年の法改正によって一部の検体採取が可能となったので、このテキストを用いて、検査専攻 3 年次に実習を行っている。検体採取に必要な解剖学的知識から、被験者への配慮、実際の手技と注意点、緊急時の対応までコンパクトにまとめている。

【492.1||Ja】

□ **目で見える感染症/ 原永修作, 藤田次郎編 羊土社 2015**

→ 「目を見た診断ポイント」について、豊富な画像や図と解説が載っている。臨床検査技師も平成 27 年の法改正によって一部の検体採取が可能となっており、患部の“見た目”を知っておくことは今後ますます必要になるだろう。

【493.8||Me】

□ **病気がみえる Vol 6 免疫・膠原病・感染症/ 医療情報科学研究所編 MEDIC MEDIA 2018**

→ 免疫のしくみと細菌、真菌、ウイルスによる感染症について、豊富な画像や図を用いて非常にわかりやすく解説されている。微生物や抗菌薬が苦手な人でも読みやすい。

【492||By||6】

□ **もっとよくわかる！感染症（実験医学別冊） / 阿部章夫著 羊土社 2014**

→ 代表的な細菌、真菌、ウイルスによる感染症について、最新の知見が豊富な図を用いてわかりやすく紹介されている。じっくり読むと、微生物がどのようにして感染症をおこし、しばしば強毒性になったり、薬剤が効かなくなったりするのか、なるほどと思える書です。

【493.8||Ab】

□ **感染症診療のロジック / 大曲貴夫 南山堂 2010**

→ 感染症の診断の基本的なアプローチ法について、患者のモンダイ別（咳が出る、下痢があるなど）にどのように考えて診断や検査を進めていくのかを知ることができます。多職種で連携して感染症医療を進める際に必要な考え方を身につけるのに役立つと思います。

【493.8||Om】

□ **在宅医療×感染症 / 遠藤光洋, 大曲貴夫 南山堂 2016**

→ 在宅医療の中で起こる様々な感染症の問題について、在宅医療を長く担っている医師と感染症専門医の対話形式で、具体的な事例を紹介しながら記されている。

【493.8||Za】

□ **感染症レジデントマニュアル/ 第 2 版 藤本卓司著 医学書院 2013**

→ 日常よく遭遇する感染症についてのスタンダードな考え方についてコンパクトにまとめられたテキスト。代表的な微生物ごとの臨床像やグラム染色所見の特徴がスケッチ図や写真付きで説明されている。

【493.8||Fu】

□ **レジデントのための感染症診療マニュアル 第 4 版 / 青木眞著 医学書院 2020**

→ 「感染症診療の原則」を基本骨格として、各種感染症の診療や治療薬、ワクチンについて、また重要な微生物とその臨床像についても詳細に説明されており、感染症の学修を深めるのになくはない書である。【493.8||Ao】

□ **臨床検査法提要 改訂 35 版/ 金井正光監修 金原出版 2020 年**

→ 臨床検査の実施に関するすべて（臨床微生物検査の検体の前処理から薬剤感受性の判定，耐性菌の試験）が詳細に記載されている。

【492. 1||Ri】

□ **臨床微生物検査ハンドブック 第 5 版/ 小栗豊子 三輪書店 2018**

→ 臨床微生物検査で行うあらゆる検査技術について詳細にまとめられた手引書。薬剤耐性菌の封じ込めに必要な耐性菌の検査にも重点が置かれている。

【492. 18||Ri】

□ **戸田新細菌学 改訂 34 版/ 吉田真一，柳雄介，吉開泰信編集 南山堂 2013**

→ ヒトの感染症の原因となる細菌，ウイルス，真菌について，形態，生理，生化学の他，感染症を引き起こすメカニズムから診断，治療，予防まで詳細に解説されている。微生物学の進歩に対応して改訂されてきたテキスト。

【491. 7||To】

□ **医真菌 100 種 臨床で見逃していたカビたち / 榎村浩一 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2019**

→ 医療の高度化に伴って増加している日和見感染症の原因となっている様々な真菌について，美しい画像により多様な菌種ごとの形態的な特徴を知ることができます。

【491. 7||Ma】

□ **これでわかる！抗菌薬選択トレーニング / 藤田直久編集 医学書院 2019**

→ 薬剤感受性試験の結果を読み解くトレーニングにおすすめのテキスト。主要な病原細菌の 56 症例の検査結果を提示して適切な抗菌薬の選択を考えさせる形式になっている。1 ページに 1 設問で次ページに解説があり，また微生物検査の知識をまとめた章もあり，とても取り組みやすいテキスト。

【492. 31||Ko】

□ **抗菌薬おさらい帳 第 2 版/ 関雅文編著 じほう 2019**

→ 感染症の治療薬の特徴や使い方についてわかりやすくまとめられている。イラスト入りで，読みやすく，これなら最後まで読めるかもしれない！

【492. 31||Ko】

□ **病棟で使える消毒・滅菌ブック / 尾家重治編著 照林社 2014**

→ 院内感染を防ぐための消毒・滅菌の方法と適用について，具体的に書かれた書。院内感染の病原体がどこにどの程度いるか等の調査結果を根拠として載せてある。

【498. 6||By】

□ **感染予防，そしてコントロールのマニュアル 第 2 版 / 岩田健太郎 監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2020**

→ 感染対策全般について，病原体の特徴や根拠となる知見を含めて具体的に書かれたマニュアル。抗菌薬適正使用についても記載されている。感染対策を深く学びたい人におすすめの書。

【498. 6||Da】

□ **大阪市十三市民病院が作った 新型コロナウイルス感染症対応ブック / 西口幸雄, 白石訓, 山本紀子編著 照林社 2020**

→ 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れの際に必要な感染対策について、病院で実際にどのように対応したのか、具体的に紹介されている。

【498.6||0s】

□ **薬がみえる (第1版) vol.3 感染症と薬、悪性腫瘍と薬他 / MEDIC MEDIA 2021**

→ 感染症の治療薬について、薬剤ごとの特徴や薬剤感受性試験の判定基準、薬剤耐性機構などが、豊富な画像やマンガを用いて解説されている。また、感染症の種類別（呼吸器、消化器、など）に、診断から治療までの流れもわかりやすい図で説明されている。微生物や抗菌薬が苦手な人でも読みやすい。

【499.1||Ku||3】
